

# 国外実態調査報告書

テーマ : 韓国における農産物流通の特徴と運営・物流の示唆  
ゼミ名 : 木立 真直 ゼミ  
調査日 : 2025年8月5日(火)～2025年8月8日(金)  
調査先 : 【大韓民国】江西農水産物卸売市場  
授業科目名 : 課題演習Ⅰ、演習Ⅲ  
参加学生数 : 7名(2年生)、2名(4年生)

## 1. 調査の趣旨(目的)

韓国の農産物卸売市場の構造と運営の実態を明らかにし、日本の農産物流通構造と比較することで、経営および物流上の課題や特徴を把握することを目的とする。さらに、現地視察を通じて、取引の流れ、商習慣、衛生管理など、運営面および文化的な相違を実証的に把握することを目標とする。

## 2. 調査結果

訪問した江西農水産物卸売市場は、韓国内の公設市場の一つであり、卸売法人3社と約60社の市場卸売人で構成されている。卸売法人による市場卸売人との取引は主に競り方式で行われ、価格は需給によって決定される。一方、市場卸売人同士の取引は契約方式を中心としており、直接取引を通じて比較的安定した価格で行われている。その価格設定についても、買い手からの信頼を獲得している。品目によって競り取引と契約取引の比率は異なり、現在では顔なじみとの継続的な取引が文化として根付いている。2017年以降は取引の透明化を目的として、精算組織が金銭の仲介を担い、1週間以内の入金ルールが導入された。しかし、精算組合は実際には1.2日以内に出荷者(=生産者)へ代金を精算しているとのことである。

現場では取引スピードが重視され、衛生管理よりも迅速な商談成立が優先される傾向にある。決済は現金取引が主流であり、特に早朝や小口取引においては、取引および決済のスピードが競争力の源泉となっている。一方で、インターネットの普及に伴い流通チャネルの多様化が進展し、市場外取引の増加や卸売法人と市場卸売人の役割分担が大きな課題となっている。中には卸売法人の排除を模索する動きも見られ、市場経営環境は大きな転換期を迎えている。

総じて、韓国の卸売市場は伝統的な商習慣と、近代的な透明性向上策が複雑に共存し、競争と協調のバランスを模索していることが明らかとなった。

## 3. 考察

本調査を通じて、韓国の卸売市場は単なる商品取引の場を超え、人的ネットワークと信頼関係を基盤とした独自の商取引文化によって成り立っていることが示された。競り取引と契約取引の使い分けは、価格の安定性、取引スピード、顧客ロイヤルティに直結

し、経営戦略上きわめて重要な要素である。

また、現金即決取引が依然として主流である点は、日本のシステムティックな決済環境とは一線を画しており、高速な取引効率を実現している一方で、衛生管理や品質保持といったリスクを内包している。さらに、政府による透明化政策と長年の慣習の間には調整が必要であり、とりわけ卸売法人と市場卸売人の役割分担や市場外取引の増加は、今後の市場経営における重要課題となる。

これらの知見は日本の卸売市場の在り方にも示唆を与える。韓国スピード重視型モデルは生鮮流通の効率化やフードロス削減に資する可能性がある一方、日本の衛生管理・トレーサビリティ重視制度は韓国市場の国際競争力の強化に寄与し得る。今後は、両国の強みを活かした協調的な流通モデルの構築が期待される。

最後に、今回の調査では、(社)韓国市場卸売人連合会会長 Lim Sungchan 様ならびに連合会の皆様に大変、お世話になった。心からお礼申し上げます。



写真 江西農水産物卸売市場・連合会会議室、ビル前にて

(文責：磯野新)